



Soliton SecureWorkspace V1.4.8
リリースノート

Soliton[®]

株式会社ソリトンシステムズ 2026年3月

Soliton SecureWorkspace は、株式会社ソリトンシステムズ特許技術(特許第 6104447 号)を使用しています。

Soliton SecureWorkspace は、株式会社ソリトンシステムズの商標です。

その他、本書に記載の会社名、製品名等は、各社の商標または登録商標です。

本文中に ™、®、©は明記していません。

© 2016 Soliton Systems K.K.

目次

1	本書について	5
2	新機能	6
	 V1.4.6 からの新機能	6
	 V1.4.4 からの新機能	7
	 V1.4.3 からの新機能	7
	 V1.4.2 からの新機能	8
	 V1.4.0 からの新機能	8
3	改善項目および変更項目	10
	 3.1 改善項目	10
	 V1.4.8 での改善項目	10
	 V1.4.7 での改善項目	10
	 V1.4.6 での改善項目	10
	 V1.4.5 での改善項目	11
	 V1.4.4 での改善項目	11
	 V1.4.3 での改善項目	12
	 V1.4.2 での改善項目	13
	 V1.4.1 での改善項目	14
	 V1.4.0 での改善項目	15
	 3.2 変更項目	16
	 V1.4.8 での変更項目	16
	 V1.4.6 での変更項目	16
	 V1.4.4 での変更項目	16
	 V1.4.3 での変更項目	17
	 V1.4.2 での変更項目	18
	 V1.4.1 での変更項目	18
	 V1.4.0 での変更項目	19
4	制約事項および注意事項	21
	 4.1 制約事項	21
	 4.2 注意事項	22



5	アップデート	25
	5.1 アップデート前の確認事項	25
	5.2 アップデート	26

1 本書について

いつも、株式会社ソリトンシステムズ オリジナルセキュリティ製品「Soliton SecureWorkspace」（旧製品名：WrappingBox）をご利用いただき、誠にありがとうございます。

※WrappingBox は V1.4.2 へのバージョンアップの際に、製品名を「Soliton SecureWorkspace」に変更しました。

Soliton SecureWorkspace（以降、SecureWorkspace）は、プログラムの実行環境となる隔離領域をコンピューター上に作成し、隔離領域内でのデータアクセスを監視、制御することにより、情報漏えいの防止とコンピューター環境を保護する機能を提供する製品です。隔離領域内のプログラムが実行するファイル保存やレジストリ編集などの処理は、コンピューター上の実際の環境には影響を与えないように制御されます。また、特許取得済み（特許第 6104447 号）の技術により、Windows で動作するアプリケーションが、OS やアプリケーション間で行うデータ通信（COM 経由でのデータ通信）も制御されます。

本書は、SecureWorkspace V1.4.8 での新機能、改善項目および変更項目、制約事項および注意事項、V1.4.8 へのアップデート方法について説明するリリースノートです。SecureWorkspace の隔離領域内で動作する SecureBrowser II（以降、SecureBrowser）に追加された新機能、改善項目および変更項目については、「Soliton SecureBrowser II リリースノート」の【ブラウザー機能】に記載されている内容を参照してください。



SecureWorkspace V1.4.8 の隔離領域内で SecureBrowser を動作させるためには、バージョンが「130.0.2849.39」以降の WebView2 ランタイムが必要です。

SecureBrowser を使用する場合は、常に最新バージョンの WebView2 ランタイムがインストールされているコンピューター環境を使用していただくことを推奨します。

本書とその他の関連ドキュメントの内容に矛盾がある場合は、本書の内容にしたがってください。

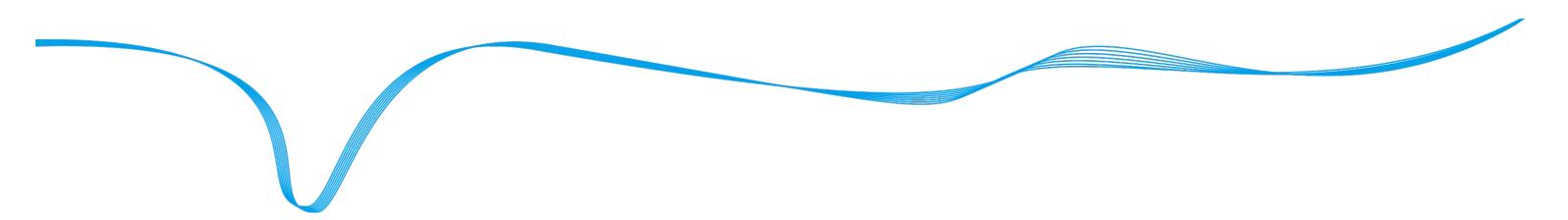
弊社の Web サイト (<https://www.soliton.co.jp/>) で、マニュアル、リリースノート、FAQ 情報など本製品に関する最新情報を提供していますので、あわせてご参照ください。

2 新機能

SecureWorkspace で新たに追加した機能について説明します。

V1.4.6 からの新機能

1. 初回ログイン時からユーザー名/パスワードを入力せずに自動ログインする機能を追加 (KBWB021987)
初回ログイン時からユーザー名/パスワードを入力せずに SecureWorkspace へ自動ログインする機能を追加しました。
この機能は、SecureGateway の認証方式で「LDAP」を選択し、認証サーバーとして Active Directory を使用している場合のみ動作します。
この機能を利用するためには、SecureGateway V2.0.5 で追加された LDAP 認証設定の[自動ログイン]の設定で「有効にする」をチェックする必要があります。機能の詳細および注意事項については、「Soliton SecureGateway システム管理ページリファレンスマニュアル」を参照してください。
2. SecureWorkspace デスクトップの壁紙/背景色を変更する機能を追加 (KBWB021977)
SecureWorkspace デスクトップの壁紙/背景色を、SecureGateway のプロファイルに設定されている壁紙/背景色に変更する機能を追加しました。この機能追加にともない、既存の壁紙についてもデザインを更新しています。
壁紙/背景色は、SecureGateway V2.0.5 で追加された[壁紙]の設定で指定することができます。
3. SecureWorkspace デスクトップのサイズを変更できる機能を追加 (KBWB021978)
SecureWorkspace デスクトップの最小化が許可されている場合は、SecureWorkspace デスクトップの最小化だけでなくサイズの変更もできる機能を追加しました。
4. タスクバーの ClearFolder アイコンから新規に ClearFolder を起動する機能を追加 (KBWB021890)
タスクバーに表示された ClearFolder アイコンの右クリックメニューに、ClearFolder を新規に起動できるメニューを追加しました。
5. 接続先の SecureGateway を指定して起動する機能を追加 (KBWB021973)
SecureWorkspace に接続先の SecureGateway を指定して起動する機能を追加しました。
使用方法については、「Soliton SecureWorkspace ユーザーズガイド」の「付録 4 接続先の SecureGateway を指定して起動」を参照してください。
6. 外部コマンドによって SecureWorkspace をログアウトさせる機能を追加 (KBWB021891)
外部コマンドによって起動中の SecureWorkspace をログアウトさせる機能を追加しました。
使用方法については、「Soliton SecureWorkspace ユーザーズガイド」の「付録 5 外部コマンドによるログアウト実行」を参照してください。



V1.4.4 からの新機能

1. 隔離領域内に起動しているアプリケーションの画面を一括で非表示にできる機能を追加 (KBWB021320)

SecureWorkspace デスクトップのタイトルバーに表示されるアイコンをクリックすることで、隔離領域内に起動しているアプリケーションの画面を一括で非表示にできる機能を追加しました。また、コンピューターがロックされた際にも、隔離領域内で起動しているアプリケーションの画面を一括で非表示にするオプション機能を追加しました。

この機能を利用するためには、SecureGateway V2.0.4 で追加された[隔離領域内アプリ画面を隠す]の設定で「使用する」を選択する（オプション機能は[PC ロック時に隔離領域内アプリ画面を隠す]をチェックする）必要があります。

2. ClearFolder に機能を追加

ClearFolder に以下の機能を追加しました。

- Windows 標準のショートカットファイル(.lnk)対応 (KBWB021264)

Windows 標準のショートカットファイル(.lnk)を ClearFolder 上から開く動作に対応しました。

ClearFolder 上でファイル/フォルダーへのショートカットを作成する際には、拡張子(.lnk)のショートカットファイルをファイル/フォルダーが存在するフォルダーに作成するようにしました。

- アドレスバーへの直接入力対応 (KBWB021265)

アドレスバーにパスを直接入力して移動する動作に対応しました。

パス部分をクリックした際にフォルダーごとに階層化した上位パスをドロップダウンリストとして表示し、ドロップダウンリストのパスをクリックすると上位フォルダーへ移動できるようにしました。

- SecureWorkspace デスクトップへのドラッグ&ドロップ対応 (KBWB021196)

ClearFolder から SecureWorkspace デスクトップへのドラッグ&ドロップで、ファイルをコピーまたは移動できるようにしました。

- ネットワークフォルダーのクイックパス登録対応 (KBWB021197)

ネットワークフォルダーをクイックパスに登録できるようにしました。

3. Soliton Browser Switching Tool に対応 (KBWB021351)

Soliton Browser Switching Tool によるブラウザ自動切り替えに対応しました。

この機能は、Soliton Browser Switching Tool V1.0.1 に対応しています。詳細については、「Soliton Browser Switching Tool 取扱説明書」を参照してください。

V1.4.3 からの新機能

1. 前回ログインした認証情報を使用して自動でログインする機能を追加 (KBWB020782)

前回ログインしたユーザー名/パスワードの認証情報を保持し、次回以降は保持している認証情報を使用して自動でログインする機能を追加しました。

この機能を利用するためには、SecureGateway V2.0.3 で追加された[ログインパスワード]の設定で「保持する」を選択する必要があります。

2. 印刷時にファイル出力するアプリケーションのファイル出力先を隔離領域内に制限する機能を追加 (KBWB020535)

Print Spooler サービスを使用して印刷時にファイルを出力するアプリケーション（Microsoft Print to PDF など）のファイル出力先を、隔離領域内に制限する機能を追加しました。



この機能を利用するためには、SecureGateway V2.0.3 で追加された「作成された印刷データを隔離領域内に保存する」の設定をチェックする必要があります。

3. ClearFolder のコンテンツペインにキーボード入力による検索機能を追加 (KBWB020625)

ClearFolder のコンテンツペインで、フォルダー名やファイル名の先頭文字をキーボードから入力すると該当するフォルダーやファイルに移動する機能を追加しました。

4. Microsoft Office 2024 に対応 (KBWB020783)

動作確認済みプログラムに Microsoft Office 2024 を追加しました。

V1.4.2 からの新機能

1. 新しいファイラーとして ClearFolder を追加 (KBWB019229)

隔離領域内で扱うファイルを管理するための新たなファイラーとして ClearFolder を追加しました。

- 操作性を格段に向上

Windows 標準に近いデザインと操作性を実現することで、ユーザーが戸惑うことなくファイル操作を行えます。

- クイックパス機能

SecureWorkspace デスクトップ、ダウンロードフォルダーへのショートカットのほか、ユーザーが登録した任意のフォルダー、隔離領域内で最近使用したファイルへのショートカットを利用できます。

- ネットワークフォルダー機能

SecureGateway のプロファイルに登録したネットワークフォルダーが表示され、ClearFolder 上でネットワークフォルダー内のファイルを閲覧/編集/保存できます。

2. 設定情報のインポート機能拡張 (KBWB019642)

管理者がリファレンス端末で設定した設定情報をインポートした環境でも、ユーザーがアプリケーション情報を編集できる機能を追加しました。

ユーザーによるアプリケーション情報編集の許可/不許可は、管理者がリファレンス端末で設定できます。

3. エキスパートモードをプロファイルで制御できる機能を追加 (KBWB020069)

管理者がリファレンス端末で設定していた[エキスパートモードを使用する]の設定項目を廃止し、以下の設定の許可/不許可を SecureGateway のプロファイルから SecureWorkspace に適用できるようにしました。

- 登録アプリ動作中のログイン
- SecureWorkspace デスクトップの最小化

この機能は、SecureGateway V2.0.2 で対応しています。

V1.4.0 からの新機能

1. リモートデスクトップ機能を強化 (KBWB017106)

以下のようにリモートデスクトップ機能の強化を行いました。

- 接続先設定を管理する機能

複数のリモートデスクトップ接続先情報や認証情報を管理する機能をもつリモートデスクトップ接続ツールを追加しました。2 回目以降の接続時には、リモートデスクトップ接続ツールに保存されている認証情報を使用して自動ログインできます。

- 動作仕様を設定する機能

リモートデスクトップ接続時の動作仕様（画面サイズ、リモートオーディオ、ローカルデバイス）をリモートデスクトップ接続ツールで設定できます。

ローカルデバイスについては、利用の可否やユーザーによる設定変更の可否を SecureGateway のプロファイルで制御できます（SecureGateway V2.0.0 以降が必要です）。

- ショートカットから起動する機能

リモートデスクトップ接続ツールが隔離領域外に作成したショートカットから、WrappingBox のリモートデスクトップ機能を起動できるようにしました。ショートカットから起動することで、リモートデスクトップ接続するまでの操作回数を減らすことができます。

2. SecureBrowser Pro の起動メニューを非表示にできる機能を追加（KBWB017053）

WrappingBox デスクトップ、および WrappingBox スタートメニューに表示される SecureBrowser Pro の起動メニューを非表示にできる機能を追加しました。

この機能を利用するためには、SecureGateway V2.0.0 で追加された[SecureBrowser Pro の起動]の設定で「許可しない」を選択する必要があります。

3. 外部アプリから SecureBrowser を起動する機能を追加（KBWB017192）

外部アプリからの呼び出しによって、SecureBrowser を起動し任意の Web サイトを開くことができる機能を追加しました。

使用方法については、「Soliton WrappingBox ユーザーズガイド」の「付録 3 外部アプリからの SecureBrowser 起動」を参照してください。

3 改善項目および変更項目

SecureWorkspace の改善項目および変更項目について説明します。

3.1 改善項目

V1.4.8 での改善項目

1. ローカルから不正なコードが実行される脆弱性 (KBWB022878)
インストールフォルダーを標準のフォルダーから変更している場合に、システム権限で任意のコードが実行される可能性がある脆弱性 (CVE-2026-27653) を修正しました。
2. SecureWorkspace を使用中に BSoD が発生する場合がある (KBWB022869)
SecureWorkspace の内部的な動作ログが短時間に集中して出力されるような環境において BSoD が発生する場合がある問題を修正しました。

V1.4.7 での改善項目

1. 印刷データを隔離領域内に保存する設定がされている環境では Microsoft OneNote の仮想プリンターを使用できないように修正 (KBWB022642)
プロファイルの[印刷]で「許可する」を設定し[作成された印刷データを隔離領域内に保存する]をチェックしている環境では、隔離領域内で起動したアプリケーションから Microsoft OneNote の仮想プリンターを使用できないように修正しました。

V1.4.6 での改善項目

1. フォルダーリダイレクトを設定している環境で Office ファイルが保存できない (KBWB022289)
Windows のフォルダーリダイレクトを設定している環境で、Office ファイルが保存できない問題を修正しました。
2. 設定ファイルをインポートした際に Microsoft Edge の実行ファイルのパスが正しく登録されない場合がある (KBWB022076)
アプリケーション情報を含む設定ファイルをインポートした際に、Microsoft Edge の実行ファイルのパスが Utility のプログラム管理に正しく登録されない場合がある問題を修正しました。
3. Windows 11 環境で既定のアプリがリセットされる場合がある (KBWB021995)
Windows 11 の仕様変更によって、SecureWorkspace や ClearFolder の起動時に「アプリの既定値がリセットされました」というメッセージが表示され、既定のアプリがリセットされる場合がある問題を修正しました。

4. ネットワークフォルダーを複数登録している環境でネットワークフォルダーにアクセスできなくなる場合がある (KBWB021645)

ネットワークフォルダーを複数登録している環境で、複数のネットワークフォルダーがファイルサーバー側から切断された状態になると接続できるはずのネットワークフォルダーにもアクセスできなくなる場合がある問題を修正しました。

5. ネットワークフォルダー上にあるリンク先をショートカットから開けない場合がある (KBWB022425)

SecureGateway のプロファイルに登録されているネットワークフォルダーのフォルダーパスとショートカットのリンク先パスで大文字小文字が異なる場合、ネットワークフォルダー上にあるリンク先をショートカットから開けない問題を修正しました。

6. ClearFolder でコンテンツを表示する処理のパフォーマンスを改善 (KBWB022165)

ClearFolder でコンテンツを表示する処理のパフォーマンス改善を行いました。

V1.4.5 での改善項目

1. 負荷分散構成の SecureGateway に SecureWorkspace からログインできない場合がある (KBWB022081)

負荷分散構成の SecureGateway に SecureWorkspace からログインできない場合がある問題を修正しました。この問題は、以下のすべての条件に該当する場合に発生していました。

- SecureGateway を負荷分散構成にしている
- SecureWorkspace V1.4.4 を使用している
- クライアント証明書認証を有効にしている
- ネットワークフォルダー機能を設定していない (※)
- リモートデスクトップ機能を使用していない (※)

※ 当該機能が存在しない旧バージョンの SecureGateway を使用している場合も該当します。

既にこの問題が発生している環境では、SecureWorkspace を V1.4.5 へアップデート後、変更を反映するためにコンピューターの再起動を行ってください。

V1.4.4 での改善項目

1. ユーザー名/パスワード間違いでログイン失敗後に<キャンセル>をクリックするとアプリケーションエラーが発生する (KBWB021575)

接続先の SecureGateway が 1 件のみ登録された設定情報をインポートした環境で、ユーザー名/パスワード間違いでログイン失敗後に<キャンセル>をクリックすると SecureWorkspace のアプリケーションエラーが発生する問題を修正しました。

2. SmartOn ID の Pass 機能を使用して SecureWorkspace へシングルサインオンできない場合がある (KBWB021337)

接続先の SecureGateway が 1 件のみ登録された設定情報をインポートした環境で、SmartOn ID の Pass 機能を使用して SecureWorkspace へシングルサインオンできない場合がある問題を修正しました。

3. ClearFolder の問題を修正

ClearFolder で以下の問題を修正しました。

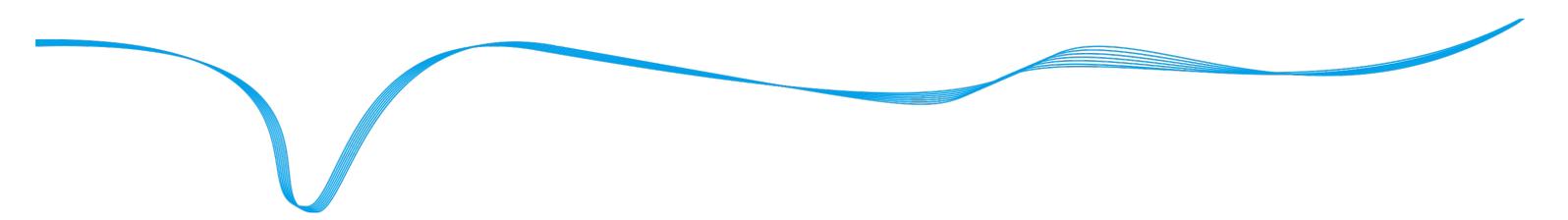
- フォルダーの内容が表示されるまでに時間がかかる (KBWB021334)

大量のファイルやフォルダーが存在するフォルダーにアクセスすると、フォルダーの内容が表示されるまでに時間がかかる問題を修正しました。

- 複数の ClearFolder を連続して起動するとクイックパスが消えてしまう (KBWB021163)
クイックパスを登録している環境で、複数の ClearFolder を連続して起動すると登録されていたクイックパスが消えてしまう問題を修正しました。
 - ファイルのアイコンが正常に表示されない場合がある (KBWB021100)
SecureWorkspace デスクトップに正常に表示されているファイルのアイコンが、ClearFolder では正常に表示されない場合がある問題を修正しました。
 - FileZen/FileZen S へファイルをアップロードできなくなる場合がある (KBWB021741)
FileZen/FileZen S へファイルをアップロード後、アップロード画面を閉じる前に SecureWorkspace が異常終了した場合、以降は FileZen/FileZen S へファイルをアップロードできなくなる問題を修正しました。
 - ネットワークフォルダーにアクセスできなくなる場合がある (KBWB021507)
1 台のコンピューターで複数のユーザーが SecureWorkspace を使用している環境で、ネットワークフォルダーにアクセスできなくなる場合がある問題を修正しました。
 - サーバー名が先頭から重複するとネットワークフォルダーにアクセスできない (KBWB021752)
サーバー名が先頭から重複するネットワークフォルダーが登録されているとネットワークフォルダーにアクセスできない問題を修正しました。
4. Office アプリケーションのエクスポート機能使用時にファイルの種類が変更されない (KBWB021070)
Office アプリケーションのエクスポート機能使用時に、ファイルの種類を変更して「名前を付けて保存」を実行してもファイルの種類が変更されない問題を修正しました。
 5. ゼッタリンクス社の Answer Box Creator Z の一部の機能が動作しない (KBWB021238)
隔離領域内で起動したゼッタリンクス社の Answer Box Creator Z の一部の機能が動作しない問題を修正しました。

V1.4.3 での改善項目

1. セキュリティアップデート (KBWB021222)
CVE-2024-48510 の対策を行いました。
2. スマートアプリコントロールを有効にしている環境で SecureWorkspace のインストールに失敗する (KBWB020988)
Windows 11 のスマートアプリコントロールを有効にしている環境で、SecureWorkspace のインストールに失敗する問題を修正しました。
3. SecureWorkspace でメモリリークが発生する場合がある (KBWB020959)
SecureWorkspace でメモリリークが発生する場合がある問題を修正しました。
4. Mark II Recorder との共存環境で Microsoft Edge の操作ログが記録されない (KBWB020669)
Mark II Recorder との共存環境で、SecureWorkspace の隔離領域内で起動した Microsoft Edge の操作ログが記録されない問題を修正しました。
5. 印刷を許可している環境で Office ファイルの印刷ができない場合がある (KBWB020921)
印刷を許可している環境で Office ファイルの印刷ができない場合がある問題を修正しました。

- 
- 一部のアプリケーションで隔離領域外に存在するファイルを開くことができる (KBWB020569)

SecureWorkspace の隔離領域内で起動した一部のアプリケーションで「ファイルを開く」操作を行った際、ClearFolder ではなく隔離領域外のファイル選択画面が表示され、隔離領域外に存在するファイルを開くことができる問題を修正しました。
 - ClearFolder のナビゲーションペインのクイックパス部分にスクロールバーが表示されない (KBWB020976)

ClearFolder でクイックパスを複数登録しても、ナビゲーションペインのクイックパス部分にスクロールバーが表示されない問題を修正しました。

V1.4.2 での改善項目

- splwow64.exe のプロセスが起動しているとファイルを印刷できない場合がある (KBWB019670)

WrappingBox の隔離領域内および隔離領域外で、それぞれ splwow64.exe のプロセスが起動するファイルを開いている場合、どちらか一方のファイルが印刷できなくなる問題を修正しました。
- クライアント証明書が失効している場合に誤ったエラーコードが Utility に出力される (KBWB020277)

TLS 1.3 を使用して通信を行っている環境で、クライアント証明書が失効している場合に誤ったエラーコードが Utility に出力される問題を修正しました。
- クライアント証明書の再取得に失敗する場合がある (KBWB019847)

Windows のユーザーセッションが複数存在する環境で、クライアント証明書の再取得に失敗して SecureGateway に接続できず、SecureBrowser で Web サイトが閲覧できなくなるなどの現象が発生する問題を修正しました。
- 「WrappingBox サービスへのログインに失敗しました」が表示され WrappingBox にログインできない場合がある (KBWB019767)

IPv6 アドレスを利用している環境で、WrappingBox ログイン時に「WrappingBox サービスへのログインに失敗しました」のメッセージが表示され、ログインできない場合がある問題を修正しました。
- 隔離領域外で起動した VMware Workstation が正常に操作できない場合がある (KBWB020379)

プロファイルの[隔離領域外への貼り付け]で「許可しない」を設定している、または[隔離領域外への貼り付け]で「許可する」を設定し[テキストの貼り付けのみ許可する]をチェックしている環境で、WrappingBox を起動していると隔離領域外で起動した VMware 社の VMware Workstation が正常に操作できない場合がある問題を修正しました。
- 1 度のログインでログインログが 2 件出力される場合がある (KBWB020312)

WrappingBox ログイン時に、1 度のログインで SecureGateway の syslog へログインログが 2 件出力される場合がある問題を修正しました。
- 隔離領域内の画面キャプチャを許可していない Windows 11 で、[PrintScreen]のキー操作によって Snipping Tool を起動できる場合がある (KBWB020405)

プロファイルの[隔離領域外への貼り付け]で「許可しない」を設定している、または[隔離領域外への貼り付け]で「許可する」を設定し[テキストの貼り付けのみ許可する]をチェックしている環境において、Windows 11 で[PrintScreen キーを使用して画面キャプチャを開く]を「ON」に設定していると [PrintScreen]のキー操作によって Snipping Tool を起動できる場合がある問題を修正しました。

V1.4.1 での改善項目

1. ユーザー名にパーセント(%)が含まれているとアプリケーションエラーが発生する場合がある (KBWB018677)
WrappingBox ヘログインするユーザー名にパーセント(%)が含まれていると、ログイン時またはログイン後の操作中にアプリケーションエラーが発生する場合がある問題を修正しました。
2. ユーザー名にパーセント(%)が含まれていると個別プロファイルが適用されない (KBWB018907)
WrappingBox ヘログインするユーザー名にパーセント(%)が含まれていると、個別プロファイルが適用されない問題を修正しました。
3. シングルクォーテーション(')で括られたユーザー名ではログインに失敗する (KBWB018894)
「user」のようにシングルクォーテーション(')で括られたユーザー名では、WrappingBox へのログインに失敗する問題を修正しました。
4. マイフォルダーを起動している環境でアプリケーションエラーが発生する場合がある (KBWB017652)
マイフォルダーを開く/閉じる際やマイフォルダー内のファイルを操作中に、アプリケーションエラーが発生する場合がある問題を修正しました。
この問題に対して V1.4.0 で行った対策が不十分であったため、V1.4.1 で再度対策を行いました。
5. [隔離領域外からのデータ参照と貼り付け]を「許可しない」に設定していても隔離領域外のファイルを参照できる場合がある (KBWB018638)
プロファイルで[隔離領域外からのデータ参照と貼り付け]を「許可しない」に設定していても、隔離領域外の特定フォルダーに存在するファイルを参照できる場合がある問題を修正しました。
6. マルチディスプレイ環境でプログラムを囲うフレームの位置がずれる場合がある (KBWB018993)
表示スケールを 100%以外に設定しているディスプレイや異なる解像度のディスプレイでマルチディスプレイを構成している場合、隔離領域内で動作するプログラムを囲うフレームの位置がずれる問題を修正しました。
この修正にともない、複数のディスプレイを跨いで 1 つのプログラムを表示している場合は、プログラムの表示領域が最も大きいディスプレイにのみフレームが表示されるようになります。
7. ファイル名に全角のマイナス(-)が含まれているファイルを圧縮すると解凍に失敗する (KBWB018507)
マイフォルダー内でファイル名に環境依存文字である全角のマイナス(-)が含まれているファイルを圧縮すると、該当ファイルの解凍に失敗する問題を修正しました。
8. Windows 11 環境でメモ帳の表示対象ファイル一覧に「.txt」や「.log」などの拡張子が登録されない (KBWB016338)
プロファイルの[表示対象ファイル]で「指定しない」を設定している場合、Windows 11 環境でメモ帳の表示対象ファイル一覧に「.txt」や「.log」などの拡張子が登録されない問題を修正しました。
なお、Windows の「既定のアプリ」で拡張子の関連付けを変更している環境では、表示対象ファイル一覧に目的の拡張子が登録されない場合があります。この場合は、目的の拡張子を関連付けているプログラムをプログラム管理に登録してください。
9. FileZen S へのファイルアップロードに連続して失敗すると FileZen S にアクセスできなくなる場合がある (KBWB018553)
マイフォルダー操作メニューの「FileZen S にアップロード」を使用した FileZen S へのファイルアップロードに連続して失敗すると、FileZen S にアクセスできなくなる場合がある問題を修正しました。

10. FileZen S へファイルをアップロードできない場合がある (KBWB018188)

WrappingBox へログインしているユーザーのパスワードに以下のいずれかの記号が含まれている場合、マイフォルダー操作メニューの「FileZen S にアップロード」を使用して FileZen S へのファイルアップロードを行っても、FileZen S へのログインに失敗しファイルのアップロードができない問題を修正しました。

- スラッシュ(/)、円記号(¥)、ダブルクォーテーション(")

V1.4.0 での改善項目

1. 隔離領域外で起動しているアプリケーションが異常終了する場合がある (KBWB017206)

プロファイルの[隔離領域外への貼り付け]で「許可しない」を設定している、または[隔離領域外への貼り付け]で「許可する」を設定し[テキストの貼り付けのみ許可する]をチェックしている環境で、WrappingBox を起動していると隔離領域外で起動しているアプリケーションが異常終了する場合がある問題を修正しました。

2. 隔離領域外の Adobe Acrobat Reader DC を起動できない場合がある (KBWB017193)

プロファイルの[隔離領域外への貼り付け]で「許可しない」を設定している、または[隔離領域外への貼り付け]で「許可する」を設定し[テキストの貼り付けのみ許可する]をチェックしている環境で、WrappingBox を起動していると隔離領域外の Adobe Acrobat Reader DC を起動できない場合がある問題を修正しました。

3. マイフォルダーを起動している環境でアプリケーションエラーが発生する場合がある (KBWB017652)

マイフォルダーを開く/閉じる際やマイフォルダー内のファイルを操作中に、アプリケーションエラーが発生する場合がある問題を修正しました。

4. メモ帳のタブを追加するとメモ帳が強制的に終了してしまう (KBWB017944)

WrappingBox を起動している Windows 11 環境で、メモ帳のタブを追加するとメモ帳が強制的に終了してしまう問題を修正しました。

5. ZIP ファイルを展開できない場合がある (KBWB017174)

マイフォルダー内の ZIP ファイルを展開できない場合がある問題を修正しました。

6. 多要素認証が必要な環境で WrappingBox のログインに失敗する場合がある (KBWB016270)

多要素認証が必要な環境で WrappingBox のログインに失敗する場合がある問題を修正しました。

7. Google Chrome でブックマークバーのブックマークが表示されなくなる場合がある (KBWB017280)

WrappingBox の隔離領域内で起動した Google Chrome で、ブックマークバーのブックマークが表示されなくなる場合がある問題を修正しました。

8. 表示する文字の大きさを変更した環境で一部の文字が見切れて表示される (KBWB017572)

Windows の[設定]-[簡単設定]で文字を大きく表示するように変更した環境で、一部の文字が見切れて表示される問題を修正しました。

9. FileZen S へのファイルアップロードに失敗する (KBWB017302)

FileZen S で[アップロード毎のサイズ制限]を 2,048MB 以上に設定している場合、WrappingBox から FileZen S へのファイルアップロード時に「FileZen S へのログインに失敗しました」のエラーメッセージが表示され、ファイルのアップロードに失敗する問題を修正しました。

10. タッチパッドで行う操作が正常に動作しない (KBWB018621)

タッチパッドで行うスクロール、ピンチイン、ピンチアウトなどの操作が正常に動作しない問題に対応しました。

3.2 変更項目

V1.4.8 での変更項目

1. SecureWorkspace のインストールフォルダーを変更できないように変更 (KBWB022883)

V1.4.7 以前ではインストール時にインストールフォルダーを変更できましたが、V1.4.8 以降ではインストールフォルダーを変更できないようにしました。

SecureWorkspace は、以下のように Program Files (x86)フォルダー配下へインストールされます。

C:¥Program Files (x86)¥Soliton WrappingBox

なお、SecureWorkspace を標準のフォルダー以外にインストールしている環境からアップデートした場合は、アップデート時にインストールフォルダーが上記フォルダーに自動で変更されます。アップデート時の制約事項については、「5.1 アップデート前の確認事項」を参照してください。

V1.4.6 での変更項目

1. VPN 接続を行っている環境でも隔離領域内の Microsoft Edge/Google Chrome を利用できるよう変更 (KBWB022229)

VPN 接続を行っているコンピューター環境でも、隔離領域内の Microsoft Edge/Google Chrome を利用できるようになりました。

2. IE モード利用時にダウンロードしたファイルをダウンロードフォルダーに保存するように変更 (KBWB021989)

隔離領域内で Microsoft Edge の IE モード利用時に、ダウンロードしたファイルをダウンロードフォルダーに保存するようにしました。

3. Windows 11 環境で隔離領域外のメモ帳が保持している内容は隔離領域内で起動したメモ帳に表示しないように変更 (KBWB020975)

Windows 11 環境のメモ帳で[メモ帳の起動時]設定が「前のセッションを続行」(デフォルト)の場合、メモ帳を保存せずに終了しても編集中の内容が保持され次回起動時に保持している内容が再表示されますが、この設定に関わらず隔離領域外のメモ帳が保持している内容は隔離領域内で起動したメモ帳に表示しないように変更しました。

4. エラーメッセージの変更 (KBWB022010)

エラー発生時に表示されるメッセージの見直しと変更を行いました。

V1.4.4 での変更項目

1. 登録されているアプリケーションが稼動中でログインに失敗した場合、SecureWorkspace を再起動せずにログインできるよう変更 (KBWB021288)

プロファイルの[登録アプリ動作中のログイン]に「許可しない」が設定されている環境で、登録されているアプリケーションが稼動中でログインに失敗した場合、ログイン画面に表示される<リトライ>のボタンをクリックすることで SecureWorkspace を再起動せずにログインできるよう変更しました。

2. Microsoft Edge/Google Chrome の file スキームによるアクセスを限定 (KBWB021625)

隔離領域内で動作する Microsoft Edge/Google Chrome の file スキームによるアクセスが、マイフォルダーまたはネットワークフォルダー配下に限定されるように変更しました。

3. 隔離領域内で起動しようとしたアプリケーションが隔離領域外で稼動中だった場合に表示されるメッセージを変更 (KBWB021434)

隔離領域内で起動しようとしたアプリケーションが隔離領域外で稼動中だった場合に、以下のメッセージが表示されるように変更しました。

<アプリ名>の起動に失敗しました。

隔離領域外でプログラムが動作していないか確認してください。

4. コマンドプロンプトをモード混在チェックの対象外に変更 (KBWB021321)

コマンドプロンプト (cmd.exe) をモード混在チェックの対象外に変更しました。

この変更により、隔離領域の内/外どちらかでコマンドプロンプトが稼動中であっても、もう一方でコマンドプロンプトを起動できるようになりました。

5. 実行ファイルの存在が確認できないアプリケーションを Utility のプログラム管理から自動で削除しないように変更 (KBWB021444)

登録されているアプリケーションの実行ファイルの存在が確認できなくても、Utility のプログラム管理から対象のアプリケーション (および SecureWorkspace デスクトップのショートカット) を自動で削除しないように変更しました。

V1.4.3 での変更項目

1. Windows のポリシー設定で「svchost.exe 軽減オプションを有効にする」が有効になっている場合はログインできないように変更 (KBWB020913)

Windows のポリシー設定の「svchost.exe 軽減オプションを有効にする」が有効になっている環境では SecureWorkspace が正常に動作しないため、「svchost.exe のプロセス軽減オプションが有効になっています」というメッセージを表示し SecureWorkspace にログインできないようにしました。

2. SecureWorkspace デスクトップを最小化しても共有フォルダーを閉じないように変更 (KBWB020589)

プロファイルの[SecureWorkspace デスクトップの最小化]に「許可する」が設定されている環境で、共有フォルダーを起動した状態で SecureWorkspace デスクトップを最小化しても、共有フォルダーを閉じないように動作を変更しました。

3. フォルダーの選択画面でフォルダーをダブルクリックした際はフォルダー配下へ移動するように変更 (KBWB020925)

Google ドライブへのフォルダーアップロードなどで ClearFolder 上からフォルダーを選択する際、ダブルクリックでフォルダーを決定していた動作をダブルクリックでフォルダー配下へ移動するように動作を変更しました。

4. ファイルを保存する際に拡張子を自動補完するように変更 (KBWB020877)

ファイルを開いているアプリケーションから「名前を付けて保存」操作を行い ClearFolder 上でファイル名を指定して保存する際、拡張子が指定されなかった場合またはファイルの種類に基づいた拡張子が指定されていなかった場合はファイルの種類に基づいて拡張子を自動補完して保存するようにしました。

V1.4.2 での変更項目

1. 製品名を Soliton SecureWorkspace に変更 (KBWB019693)
製品名を WrappingBox から Soliton SecureWorkspace に変更しました。
2. マイフォルダーの機能を ClearFolder 内に統合 (KBWB019229)
マイフォルダーのコンポーネントを廃止し、マイフォルダーの機能を ClearFolder 内に統合しました。
ファイラーがマイフォルダーから ClearFolder に切り替わったことによる動作の相違点や注意事項については、「4.2 注意事項」の「ClearFolder での注意事項について」を参照してください。
3. 隔離領域内で動作するアプリケーションのファイル参照先を隔離領域内に固定 (KBWB019153)
SecureWorkspace の隔離領域内で動作するアプリケーションのファイル参照先を、隔離領域内に固定しました。ファイル参照先として ClearFolder が表示されます。
なお、SecureWorkspace の隔離領域内で動作する SecureBrowser では、プロファイルの[ファイルのアップロード元の選択]の設定に関係なく、常に ClearFolder をファイルのアップロード元として使用するようになります。隔離領域外にあるファイルをアップロードする必要がある場合は、プロファイルの[隔離領域外からのデータ参照と貼り付け]を許可し、隔離領域外のファイルを ClearFolder にコピーしてからアップロードを行ってください。
4. ログアウト時に隔離領域内のファイルを保存する動作を変更 (KBWB019229)
隔離領域内のファイルは、プロファイルの[ログアウトしてもマイフォルダーにファイルを保持]の設定にしたがい、ログアウト時にすべてのファイルを保持する、またはすべてのファイルを削除するように動作を変更しました。
この変更にともない、マイフォルダー内にファイルが存在する状態でログアウトした場合に表示されるファイルの保存確認画面 (SecureFile にアップロード/マイフォルダーに保持/削除を選択する画面) は廃止しました。
5. 最終ログイン日からの経過日数によって自動でログアウトする動作を変更 (KBWB020173)
プロファイルの[最終ログイン日からの経過日数でログアウト]が設定されている場合は、SecureWorkspace デスクトップのタイトルバーに自動でログアウトする予定日時を表示し、予定日時が到来した際は確認メッセージの表示は行わず即座にログアウトが実行されるように動作を変更しました。
また、プロファイルの[ログアウトしてもマイフォルダーにファイルを保持]に「保持しない」が設定されている環境では、自動でログアウトするまでの残り時間が 3 時間、1 時間、10 分、3 分になったそれぞれのタイミングでファイルの退避と再ログインを促す通知メッセージを表示するようにしました。

V1.4.1 での変更項目

1. DataExchangeHost.exe のプロセスが起動していても WrappingBox へログインできるように変更 (KBWB018672)
V1.4.0 以前では DataExchangeHost.exe のプロセスが起動している間は WrappingBox へログインできませんでしたが、V1.4.1 以降ではログインできるように変更しました。
2. WrappingBox を管理者権限で起動しても正常に動作するように変更 (KBWB018908)
WrappingBox を管理者権限 (ビルトインアカウント「Administrator」を除く) で起動しても、正常に動作するように変更しました。

V1.4.1 以降では、以下のような状況で起動されても WrappingBox を使用できます。

- WrappingBox を「管理者として実行」で起動する
- ユーザーアカウント制御 (UAC) が無効な Windows 環境に管理者権限のユーザーでログインし、WrappingBox を起動する

以下の状況で起動された場合のみ、エラーメッセージを表示し WrappingBox の起動を中止します。

- ローカル/ドメインのビルトインアカウント「Administrator」または「Guest」で Windows にログインし、WrappingBox を起動する

3. 最大化表示しているプログラムのフレームの太さを変更 (KBWB018654)

隔離領域内で動作するプログラムを最大化表示している間は、プログラムの画面を囲うフレームを非最大化表示時より細く表示するように変更しました。

常時最大化表示される WrappingBox デスクトップには、常に細いフレームが表示されます。

V1.4.0 での変更項目

1. WrappingBox を管理者権限で起動できないように変更 (KBWB018629)

WrappingBox を管理者権限で起動できないようにしました。

以下のような状況で WrappingBox が起動された場合は、エラーメッセージを表示し WrappingBox の起動を中止します。

- ローカル/ドメインのビルトインアカウント「Administrator」で Windows にログインし、WrappingBox を起動する
- WrappingBox を「管理者として実行」で起動する

2. Windows on ARM 環境には WrappingBox をインストールできないように変更 (KBWB016877)

サポート対象外の Windows on ARM 環境では、インストーラーを実行した際にエラーメッセージを表示し、WrappingBox をインストールできないようにしました。

3. ログイン画面にクライアント証明書の警告/エラーメッセージを表示するように変更 (KBWB017052)

クライアント証明書認証が有効な環境で WrappingBox へログインする際、前回ログイン時に使用したクライアント証明書の有効期限が近い/有効期限が切れている、またはクライアント証明書が存在しない場合は、ログイン画面にクライアント証明書の警告/エラーメッセージを表示するようにしました。

4. SecureGateway の接続可能アプリバージョンに対応 (KBWB017270)

SecureGateway で指定されたバージョン未満の場合、SecureGateway に接続できないようにする機能に対応しました。

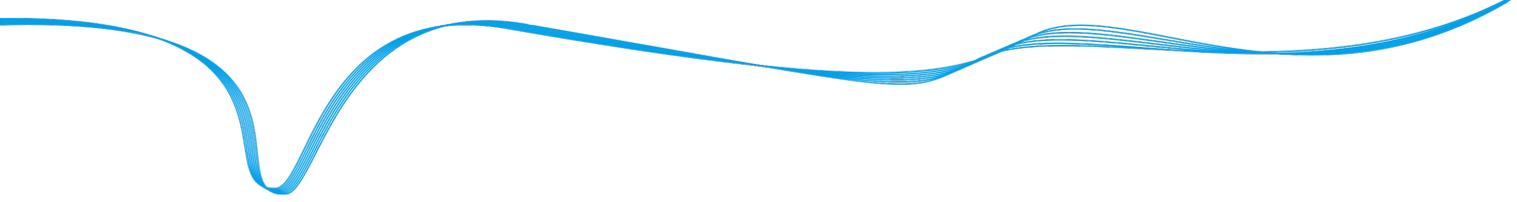
この機能を利用するためには、SecureGateway V2.0.0 で追加された[接続可能アプリバージョン]でバージョンを指定する必要があります。

5. マイフォルダーと共有フォルダーの画面表示仕様を変更 (KBWB017194)

マイフォルダーと共有フォルダーの画面を対象として、どちらかの画面を起動した際にもう一方の画面が既に起動中であれば、起動した画面を最前面に表示し、もう一方の画面をその次 (WrappingBox デスクトップの裏に隠れないよう) に表示するよう画面表示仕様を変更しました。

6. SecureDesktop Client の接続先情報を保持するように変更 (KBWB017115)

WrappingBox からログアウトする際、WrappingBox 内で使用した SecureDesktop Client の接続先や解像度設定の情報は削除せず、設定情報を保持するように動作を変更しました。



7. WrappingBox と単体製品の SecureBrowser が共存してしまった環境でアンインストールが行えるように変更 (KBWB017373)

通常は WrappingBox と単体製品の SecureBrowser が共存できないようにインストーラーが制御を行いますが、インストーラーの実行タイミングによっては WrappingBox と単体製品の SecureBrowser を両方インストールできてしまう場合があります。

このような場合に、WrappingBox および SecureBrowser のアンインストールを行うことができなかつたため、以下の手順でアンインストールを行えるようにしました。

1. 先にアンインストールする製品の「修復インストール」を行ってください。修復時にファイルを要求するダイアログが表示された場合は、インストール時に使用したインストーラーを指定してください。
2. 先にアンインストールする製品の「アンインストール」を行ってください。
3. 残った製品の「修復インストール」を行ってください。修復時にファイルを要求するダイアログが表示された場合は、インストール時に使用したインストーラーを指定してください。
4. 残った製品の「アンインストール」を行ってください。

※この変更は、WrappingBox が V1.4.0 以降、単体製品の SecureBrowser が V2.0.5 以降で対応しています。修復インストール/アンインストールの方法については、各ユーザズガイドもあわせて参照してください。

4 制約事項および注意事項

SecureWorkspace V1.4.8 での制約事項および注意事項について説明します。

4.1 制約事項

- SecureWorkspace の隔離領域内でコンソールアプリケーションを起動すると隔離領域内で動作中を示すフレームが表示されない (KBWB002206)

SecureWorkspace の隔離領域内で動作するコンソールアプリケーション (cmd.exe, powershell.exe 等) に対し隔離領域内で動作していることを示すフレームが表示されません。
- SecureWorkspace ログアウト時、エクスプローラーでエラーが発生する場合がある (KBWB001664)

SecureWorkspace ログアウト時、エクスプローラーのエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーが表示された場合は、メッセージにしたがいダイアログを閉じることで、自動的にエクスプローラーの再起動が行われます。
- [ネットワーク制御]を「使用する」に設定している場合、一部の Java アプレットが動作しない場合がある (KBWB001710)

プロファイルで[ネットワーク制御]を「使用する」に設定している場合、一部の Java アプレットが動作しないため、Web ページが表示できない場合があります。
- [ネットワーク制御]を「使用しない」に設定している場合、ファイルシステムミニフィルタと共存すると SecureWorkspace の隔離領域内で起動したアプリケーションでネットワークフォルダーの参照時にアプリケーションがハングアップする場合がある (KBWB001757)

プロファイルで[ネットワーク制御]を「使用しない」に設定している場合、ファイルシステムミニフィルタと共存時、SecureWorkspace の隔離領域内で起動したアプリケーションからネットワークフォルダーなどを参照すると、アプリケーションがハングアップする場合があります。

この問題が発生する場合は、SecureWorkspace の隔離領域外で利用者端末にコピーした後、SecureWorkspace の隔離領域内で起動したアプリケーションから開いてください。エクスプローラーなどでコピーを行う場合は、SecureWorkspace 隔離領域外で開かないこと、SecureWorkspace を終了したらコピーしたファイルも削除するなど十分注意してください。

この問題については、マイクロソフト社から以下の KB が公開されています。

<https://learn.microsoft.com/ja-JP/troubleshoot/windows-client/performance/applications-freeze-concurrently-access-file-network-drive>

回避策として提示されているオフラインファイルを無効にした場合の影響につきましては、マイクロソフト社にお問い合わせください。
- IME ツールを起動していると SecureWorkspace にログインできない (KBWB001373、KBWB001981、KBWB002343)

IME ツール (imjpdct.exe) を起動した状態で SecureWorkspace にログインできません。また、SecureWorkspace にログインした状態で SecureWorkspace の隔離領域内/外を問わず IME ツールを起動することはできません。

6. ウィンドウの自動整列をオフにしている場合、デスクトップ上部に移動したウィンドウに対する枠のうち、縦フレームが正しく表示されない場合がある (KBWB002399)

ウィンドウの自動整列をオフにしている場合、デスクトップ上部に移動したウィンドウに対する SecureWorkspace 隔離領域内動作を示すフレームのうち、縦フレームが正しく表示されない場合があります。

デフォルト設定では自動整列はオンですが、オフに変更されている可能性があります。以下の設定により設定をオンにして使用してください。

設定の[システム]-[マルチタスク]の「ウィンドウを画面の横または隅にドラッグしたときに自動的に整列する」をオンにする。

7. 上位プロキシでプロキシ認証設定がされていると「このサイトのセキュリティ証明書の取り消し情報は使用できません。」が表示される (KBWB002197)

SecureGateway のプロキシサーバー設定で[外部プロキシを使用する]を有効にし、認証を必要とするプロキシサーバーを使用する場合、Web サイトの閲覧時に「このサイトのセキュリティ証明書の取り消し情報は使用できません」というセキュリティの警告ダイアログが表示される場合があります。

この現象が発生しても Web サイトの閲覧は可能ですが、Web サイトで操作を行うたびに同じダイアログが表示され続けます。

8. インストールされている .NET Framework のバージョンによってインストールが中断される (KBWB003005)

.NET Framework の不具合が影響し、SecureWorkspace が正常に動作しない状況が確認されたため、インストール時にセキュリティ更新プログラムの適用状況を確認するようにしました。

必要なセキュリティ更新プログラムが適用されていない場合は SecureWorkspace のインストールが中断されます。セキュリティ更新プログラムを適用後、SecureWorkspace のインストール (アップデート) を行ってください。

セキュリティ更新プログラムの詳細につきましては、マイクロソフト社の以下情報を参照してください。

<https://devblogs.microsoft.com/dotnet/net-framework-may-2018-preview-of-quality-rollup/>

9. 隔離領域内からユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリへのドラッグ&ドロップ操作は動作しない (KBWB018672)

隔離領域内からユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリへの、ファイルやデータのドラッグ&ドロップ操作は動作しません。

10. ユーザーアカウント制御 (UAC) が無効な環境では隔離領域内の「管理者として実行」する機能が正常に動作しない (KBWB018908)

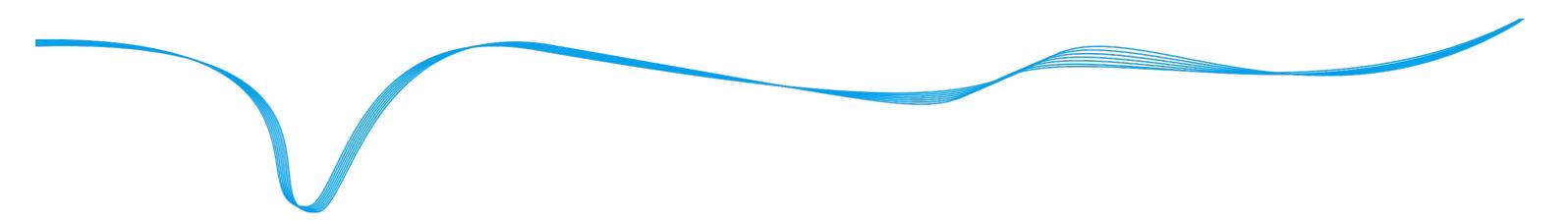
ユーザーアカウント制御 (UAC) が無効な Windows 環境では、SecureWorkspace スタートメニュー内のプログラムアイコンの右クリックメニューに表示される「管理者として実行」の機能は正常に動作しません。

4.2 注意事項

1. シマンテック社の Symantec Endpoint Protection の「プロアクティブ脅威防止」に SecureWorkspace コンポーネントが検出される場合がある (KBWB001682)

Symantec Endpoint Protection と共存する環境で、SecureWorkspace コンポーネントが「プロアクティブ脅威防止」に検出される場合があります。

検出された場合は、SecureWorkspace インストールフォルダー内の SecureAgent.exe, (64 ビット OS の場合は SecureAgent64.exe) と SandboxMain.exe を、Symantec Endpoint Protection の除外設定に追加してください。

- 
2. [ネットワーク制御]を「使用しない」に設定している場合、WebDAV 経由でのファイルアクセスがオリジナルファイルに対して行われ保護されない (KBWB001789)

プロファイルで[ネットワーク制御]を「使用しない」に設定している場合、SecureWorkspace 隔離領域内で起動したアプリケーションから WebDAV 経由で WebDAV サーバーのファイルにアクセスすると、オリジナルのファイルに対しアクセスが可能となります。そのため、アプリケーションから保存を行うと、通常の SecureWorkspace と動作が異なり上書き保存され、SecureWorkspace 終了時に変更が破棄されません。

3. [隔離領域外への貼り付け]を「許可しない」に設定している場合、PowerPoint で右クリックメニューが表示されない場合がある (KBWB001712)

プロファイルで[隔離領域外への貼り付け]を「許可しない」に設定している場合、SecureWorkspace の隔離領域内で動作する PowerPoint では、右シングルクリックからのポップアップメニューが表示されない場合があります。ポップアップメニューが表示されない場合は、右ダブルクリックを実行してください。

4. ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリはサポート対象外 (KBWB001946)

ユニバーサル Windows プラットフォーム (UWP) アプリは SecureWorkspace ランチャー機能に追加できません。

ランチャーにはデスクトップアプリケーションのみを登録してください。

5. SecureWorkspace 隔離領域内において Office アプリケーションはオフラインモードで動作する (KBWB002400)

SecureWorkspace 隔離領域内で動作する Office アプリケーションはオフラインモードで動作するため一部機能が制限されます。制限される機能の一部として以下のような例があります。

- [オンライン画像]、[オンライン ビデオ]、[オンライン オーディオ]等のオンラインコンテンツを利用できない
- 特定の操作を実行しようとする時、「この機能は管理者によって無効にされています。」というエラーメッセージが表示される

6. ショートカットからのリモートデスクトップ接続時にユーザー名が自動で補完される場合がある (KBWB017468)

ショートカットからのリモートデスクトップ接続時にリモートデスクトップ接続ツールの接続先設定に同じ接続先の設定が存在しないと、以下のように資格情報入力画面のユーザー名が自動で補完される場合があります。

- コンピューターにドメインアカウントでログインしている環境
コンピューターにログインしているドメインアカウントが補完されます。
- コンピューターにローカルアカウントでログインしている環境
SecureWorkspace にログイン中で、かつログイン中にリモートデスクトップ接続していた場合、前回リモートデスクトップ接続したユーザー名が補完されます。

7. ClearFolder での注意事項について

V1.4.2 でファイラーがマイフォルダーから ClearFolder に切り替わったことで、以下のような動作に関する相違点や注意事項があります。

- ClearFolder ではすべての拡張子のファイルが表示される (KBWB019229)

プロファイルの[表示対象ファイル]の設定有無に関わらず、ClearFolder ではすべての拡張子のファイルが表示されます。

[表示対象ファイル]の設定は、共有フォルダー (SecureFile 連携時に利用可能) にのみ適用されるため、ClearFolder から共有フォルダーにアップロードするファイルに表示対象外のファイルが含まれていると、アップロードに成功しても共有フォルダーにファイルが表示されない、またはアップロードに失敗する場合があります。

- 共有フォルダーからドラッグ&ドロップでファイルをダウンロードできない (KBWB019229)

共有フォルダー (SecureFile 連携時に利用可能) のファイルは、ドラッグ&ドロップで ClearFolder へダウンロードすることはできません。共有フォルダーのファイルの右クリックメニューから[ダウンロード]を実行することで、ClearFolder へファイルをダウンロードできます。

- 「ファイルを開く」「名前を付けて保存」で表示される画面が ClearFolder になる (KBWB019153)

隔離領域内で動作しているアプリケーションでは、「ファイルを開く」を実行したときに表示される参照画面が ClearFolder になるため、隔離領域外にあるファイルは開くことができません。隔離領域外にあるファイルを開く必要がある場合は、プロファイルの[隔離領域外からのデータ参照と貼り付け]を許可し、ファイルを隔離領域外から ClearFolder へコピーしてから開いてください。

また、「名前を付けて保存」を実行したときに表示される保存画面も ClearFolder になるため、Microsoft Office などのアプリケーション標準の保存画面にあるファイルプロパティの変更や暗号化は設定できません。

- Microsoft Office の「開く」メニューに OneDrive などのオンラインサービスは表示されない (KBWB019953)

隔離領域内で動作しているアプリケーションは隔離領域外のファイルを開くことができないように制御されているため、Microsoft Office の「開く」メニューに OneDrive などのオンラインサービスや最近使ったアイテムは表示されません。

- ネットワークフォルダー機能が動作しない環境がある (KBWB023252)

ファイルサーバーが DFS (名前空間) や MS-DFSC の DFS Referral を使用している環境では、ClearFolder のネットワークフォルダー機能は動作しません。

弊社では、以下の環境でネットワークフォルダー機能が動作しないことを確認しています。

- Windows DFS (名前空間) 環境
- Nutanix Files 環境

5 アップデート

SecureWorkspace V1.4.8 へのアップデート手順について説明します。

SecureWorkspace へは、WrappingBox から直接アップデートすることもできます。

SecureWorkspace V1.4.8 に直接アップデートできるバージョンは、WrappingBox V1.2.0 以降となります。

5.1 アップデート前の確認事項

- SecureWorkspace の隔離領域内で SecureBrowser を動作させるためには WebView2 ランタイムが必要です。コンピューターに WebView2 ランタイムがインストールされていない場合は、アップデート前に WebView2 ランタイムをインストールしてください。WebView2 ランタイムの入手方法については、弊社の SecureWorkspace ダウンロードサイトを参照してください。
- WrappingBox/SecureWorkspace にログインしている場合はログアウトしてください。



インストールフォルダーを標準のフォルダーから変更している場合、V1.4.8 以降へアップデートすると SecureWorkspace のインストールフォルダーが以下のように Program Files (x86) フォルダ一配下に自動で変更されます。

C:¥Program Files (x86)¥Soliton WrappingBox

また、当該環境においては以下の制約事項がありますので注意してください。

- SecureWorkspace デスクトップ上の SecureBrowser や SecureBrowser Pro のショートカットは、アップデート後にリンク切れの状態になります。リンク切れのショートカットを手動で削除後、SecureWorkspace スタートメニューの SecureBrowser (SecureBrowser Pro) の右クリックメニューから「ショートカットの作成」をクリックし、ショートカットを再作成してください。
- アプリケーション情報を含む設定ファイルのインポートを行っている環境では、アップデート後に再度インポートを行う必要があります。
- SecureWorkspace のインストールフォルダーにインストールモジュール以外のファイルが存在していた場合、そのファイルはアップデート時に削除されません。手動で削除してください。
- Windows のデスクトップなどに SecureWorkspace の実行ファイル「SandboxMain.exe」へのショートカット (SecureWorkspace のショートカットやリモートデスクトップ接続のショートカットなど) を作成していた場合、アップデート後にリンク切れの状態になります。必要に応じてショートカットを再作成してください。



以下の条件に一致する WrappingBox V1.4.1 以前の環境からアップデートする場合は、アップデート前にそれぞれの対応を行ってください。

- プロファイルの[ログアウトしてもマイフォルダーにファイルを保持]に「保持する」が設定されており、マイフォルダー内にファイルを保存している。

【内容】ファイラーが ClearFolder に切り替わるため、アップデート後は旧マイフォルダー内に保存されていたファイルを参照できなくなります。

【対応】マイフォルダー内に保存されている必要なファイルを、SecureFile や FileZen/FileZen S などへ退避した上で、アップデートを行ってください。

ファイルを退避せずにアップデートした場合でも、マイフォルダーファイル移行ツールを使用して旧マイフォルダー内に保存されていたファイルを ClearFolder へ移行することができます。

- [エキスパートモードを利用する]を有効にした設定情報をインポートしている。

【内容】エキスパートモードの設定はプロファイルで管理するように変更されたため、アップデート時にプロファイルの設定（デフォルトの設定は「許可しない」）で上書きされます。

【対応】適用されるプロファイルの以下の設定を「許可する」に変更した上で、アップデートを行ってください。

- [動作設定]タブ-[SecureWorkspace]-[登録アプリ動作中のログイン]
- [動作設定]タブ-[SecureWorkspace]-[SecureWorkspace デスクトップの最小化]

5.2 アップデート

1. SecureWorkspace をインストールするコンピューターにログインします。
2. 「SolitonSecureWorkspaceV14x.exe」をダブルクリックすると、セットアップ画面が表示されます。<インストール>をクリックしてください。

※ユーザーアカウント制御の確認画面が表示された場合は、<はい>をクリックしてください。Windows の標準ユーザーで実行した場合、Windows の管理者アカウントとパスワードの入力が必要です。

3. アップデートが完了すると、セットアップ完了画面が表示されます。<閉じる>をクリックしてください。再起動を要求するメッセージが表示された場合はコンピューターの再起動を行ってください。